

# 論文内容要旨

論文題目

介護が必要な人との同居と生活習慣およびうつリスクとの

関連：山形県コホート研究

教育・研究領域： 生涯生活支援看護学

氏 名： 宇野智咲

## 【内容要旨】

本研究は、介護が必要な人との同居の有無と生活習慣およびうつリスクとの関連を明らかにすることを目的とした。対象は、山形県コホート参加者のうち2021年の追加アンケート調査の回答が有効である11,019人とした。介護が必要な者との同居の有無およびうつリスクの有無と関連する個人要因について、未調整および多因子調整ロジスティック回帰分析を行った。その結果、介護が必要な人との同居している人は、そうでない人よりもうつリスクが高かった。介護者のうちうつリスクが高い人は、うつリスクが低い人と比較して経済的に苦しい、睡眠充足感が低いと認識していること、外出や身体活動などのふだんの活動に支障をきたしていることが明らかとなった。これらの結果から、家族介護者のうつリスクを低減するためには、経済状況に応じた金銭的な支援や睡眠充足感を高める支援、介護者自身が介護以外の役割を遂行する時間や自分のための時間を確保できるような支援が重要であると考えられる。

令和 7 年 1 月 8 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

## 学位論文審査結果報告書

申請者氏名：宇野 智咲

論文題目：介護が必要な人との同居と生活習慣およびうつリスクとの関連：  
山形県コホート研究

審査委員：主審査委員 諏佐 真治 

副審査委員 松田 友美 

副審査委員 櫻田 香 

審査終了日：令和 6 年 11 月 19 日

### 【論文審査結果要旨】

超高齢社会の進展に伴い、医療・介護の需要が増加し、在宅療養を伴う家族が増える中、家族の介護負担が社会問題となっています。その中で、介護負担による家族の健康への影響が懸念されていますが、これまでの研究では統一的な見解が得られていません。本研究はこの課題に着目し、介護が必要な人との同居の有無が生活習慣やうつリスクに及ぼす影響を明らかにすることを目的としています。この未解明の課題に取り組む研究目的は妥当と評価します。

対象は、山形県コホート研究の 2021 年追加アンケート調査の有効回答 11,019 人であり、十分な対象集団が確保されています。主要評価項目を介護が必要な人との同居の有無、うつリスクの有無に設定し、介護が必要な人との同居の有無による個人要因の比較と、介護が必要な人との同居ありの集団におけるうつリスクの有無と個人要因の関連を未調整および多因子調整ロジスティック回帰分析で検討しております。

解析の結果、男女とも「同居あり」群は「同居なし」群に比べて、うつリスクのオッズ比が有意に高いことが示され、介護負担による精神的健康障害の可能性が示唆されました。また、「同居あり」群の中でうつリスクが高い人は、以下の要因を持つ可能性が高いことを示しております：

- 「経済的ゆとり：苦しい」
- 「睡眠時間：足りない」
- 「週 1 回以上外出する：いいえ」
- 「1 日 1 時間以上の歩行等の身体活動：いいえ」

さらに、健康関連 QOL 項目では「ふだんの活動：問題あり」のオッズ比が最も高いことが示されました。これらより、家族介護者のうつリスク低減には、経済的支援、十分な睡眠確保、介護以外の時間を確保できる環境整備が重要であることを明らかにしております。本研究は、介護負担による健康障害のメカニズムを明確にし、具体的な支援策を示した点が重要な成果と評価されます。

本論文は、介護者の身体的・精神的健康状態やうつリスク要因を統計学的に明確化し、学術的意義の高い内容です。これらの成果に基づき、本論文は博士学位に値する内容であると判断します。